キトラ古墳全景（南から）

現地での測量風景

墓道を確認しました。盗掘坑の規模は、調査区北壁で東西幅約３ｍ、深さ1.5ｍが、出土しました。

横口式石槨の南に位置する墓道は、古墳の墳丘盛土から掘り込まれ、幅約2.5ｍ、調査区北辺での深さは1.5ｍ。東側で3.5ｍの長さが残っていました。墓道の床面は、最も高い北側0.3ｍだけがほぼ水平で、それから南側は緩く南に傾斜します。墓道の下部は、堅い版築土で埋められていました。墓道の床面には、南北方向のコロのレール痕跡がみつかりました。埋土から土器片が出土しましたが時期は特定できません。

（飛鳥藤原宮跡発掘調査部）

中国社会科学院考古研究所との共同研究（唐長安城の太液池の調査）

昨年８月、新たな５年間の共同研究に調印して以来、研究員交流や秋期事前調査を経て本年４月10日より４月28日までの18日間、奈文研から４名の調査員を派遣しました。調査対象地は、中国西安市内の唐長安城東北部分にあたる大明宮の太液池です。ちょうど池の西岸に当たる場所を昨秋の事前調査に引き続き、調査面積を拡張して東西約95m南北約47ｍの約4500㎡を調査しています。

今回は、昨秋の調査時に設置した測量基準点を使用して、中国国内座標に合わせて測量、現地の技師とともに精密な図面を作成する作業をおこないました。また、詳細な記録をとるため４×５インチ判のカメラを使用した遺構写真撮影も同時におこないました。

現地ではちょうど春先の黄砂現象がピークに達しており、調査員一同ほぼ毎日吹き荒れる砂嵐との戦いを余儀なくされ、調査終了時にはほとんど現地の方と見分けがつかなくなるほど中国の風土にとけ込んでいました。調査後半には町田章所長をはじめとする一行が、北京の研究所を経て視察に赴き、今後の調査に関する打ち合わせなどをおこないました。

（平城宮跡発掘調査部）

文化財関係研修の実施

発掘技術者研修「保存科学課程」

今年度の「保存科学課程」は、５月21日から６月５日まで実施し研修生は10名と例年に比べ少ない人数でしたが、少人数ゆえに密度の濃い研修をおこなうことができました。現場での応急処置、一時保管、事前調査、保存処理、保管・展示など遺物を保存するにあたって重要となる内容について講義、実験、実習をおこないました。２週間という短い期間では、様々な遺物の保存についての知識と技術をマスターすることはなかなか難しいことですが、基本的なことをひと通りこなすことで、保存科学に対する理解が深まったようです。

研修生の中には、今後保存処理担当者として実際に取り組んでいかなければならない方もいれば、発